

3. 自主防災を考える会：11月21日19時～21時

(1) 佐々木から「現状の自主防災会の問題点を思いつく限り挙げて欲しい。」

(2) 以下に参加者から挙げられた問題点をめぐる意見を抜粋して紹介

- 自主防災会に連絡網がある。そのトップに会長が居る。災害情報メールは現在多くの班長も受けることができる状態にある。しかし、いざ災害情報メールを受信したとき、会長からの連絡を待つか、班長の行動（情報の伝達と収集）を起こしてよいか、その点が不明確。
- 会長からの連絡なしに避難に関する情報を班長が流すのは難しい。
- 何らかの方法で災害情報を受信したとき、班長は即、班員に情報を流していいし、各班員は各自の判断で避難していい。来年度の連絡網には連絡を待たずに行動を開始するようはっきり断りをいれる。
- 今の状況なら、会長が連絡網に流す必要は全くないのではないかな。
- 連絡網は全員への情報伝達を補完する一つの方法であり、班員の避難状況を収集する役目も担っているので、今後とも必要だ。
- 連絡網が滞ると誰の責任かと追及したりすることになるのではないかな。命に係わることなので、ここはお金を掛けてでも可部東で試みられているようなシステムを導入することを考えて欲しい。
- 土砂災害警戒区域が二丁目にもある。しかし、危機意識が希薄だ。減災のために、二丁目の土砂災害警戒区域内住民への勉強会を提案する。また、班長を対象にした勉強会も別途構えることも併せて提案する。勉強会を重ね、土砂災害の知識を得ることで自分なりの避難行動を開始するタイミングを正しくつかめるようになる。
- 講師には柳迫さん（防災士）が適任だと思う。広島で話し、防災だけでなく地域での日頃のコミュニケーションが大事という点も加えて話が聞ける。
- 班でコミュニケーションが取れていれば、ある家族が避難すると判断したとき、独り暮らしの高齢者など災害弱者と一緒に避難しませんかと一声かけることになるのではないかな。
- 地域での防災にコミュニケーションが重要なのはわかるが、コミュニケーションを取るのが得意な班長ばかりではない。班や組単位でコミュニケーションを取ることでできる機会を会長が作るようにしなければいけないのではないかな。
- 自主防災会の班内の連絡網として、班長から1列か2列で情報収集網を兼ねたものが示されているが、速やかな情報の伝達にはもっと違った形の連絡網がいい。実際6組7班では速やかな情報伝達と共にどこに届いていないのかも早い段階で把握できている。